ゆめここ通信

２０２１年５月　第２号

地域支援センター
「ゆめここ」

第１号では、「自立活動の具体的な指導内容の設定」について取り上げました。今回は、「本校の自立活動の指導の取組」について整理しました。

自立活動の指導について

自立活動の指導（第1章第2節の２の（４））

学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、**自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。**特に、**自立活動の時間における指導**は、**各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動**と密接な関連を保ち、～以下省略　～

「特別支援学校学習指導要領解説　総則編（P１８８）」　より

☆このことから、自立活動の指導は、

①自立活動の時間における指導　　**②学校の教育活動全体（各教科等における指導）**

の２つで、指導していくことになります。①②は密接な関連を保つ必要があります。

各教科等を合わせた指導で自立活動の指導を行う場合

各教科等と自立活動を一部又は全部について合わせて指導を行うことによって、一層効果の上がる授業を行う場合には、**自立活動の指導目標を設定した上で指導**を行うことはあり得る。

「特別支援学校学習指導要領解説　総則編（P１８８）」　より

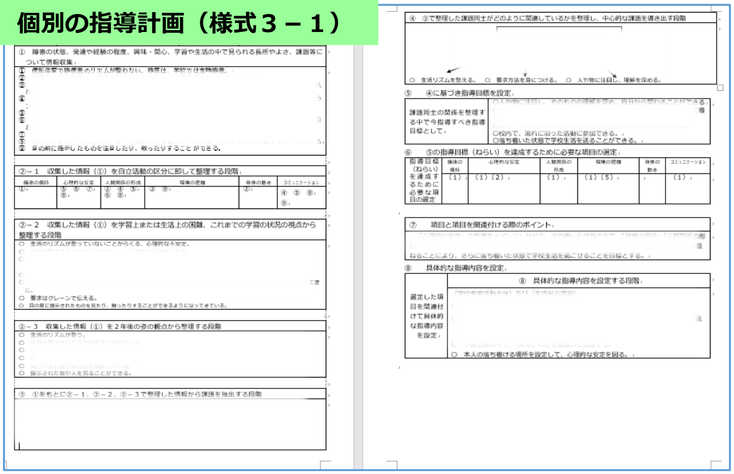
☆このことから、各教科等を合わせた指導では、**自立活動の指導目標を設定して指導**（自立活動の時間における指導と同様の指導）を行うことができることが示されています。

本校の自立活動について

本校の教育課程では、**「自立活動の時間の指導」**については　、**年間３４～３５時間**を確保し、**各教科等を合わせた指導の中で指導**していくこととなっています。また、**学校の教育活動全体を通して指導**することにもなっています。（本校教育計画参照）

このことを踏まえ、個別の指導計画（様式３－１）を活用して、自立活動の指導目標を設定し、指導の根拠を明確にして授業実践に取り組んでいるところです。

個別の指導計画（様式３－１）



① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集。

⑫ 目の前に提示したものを注目したり、触ったりすることができる。

②－１　収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
①。	⑤　⑥　⑦、⑧。	②　④　⑤、⑥　⑧。	③　⑨。	②。	④　⑤　⑧、⑨。

②－２　収集した情報（①）を学習上または生活上の困難、これまでの学習の状況の視点から整理する段階

○ 生活のリズムが整っていないことからくる、心理的な不安定。

○ 要求はクレーンで伝える。

○ 目の前に提示されたものを見たり、触ったりすることができるようになってきている。

②－３　収集した情報（①）を２年後の姿の観点から整理する段階

○ 生活のリズムが整う。

○ 提示された物や人を見ることができる。

③　①をもとに②－１、②－２、②－３で整理した情報から課題を抽出する段階

④　③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

○ 生活リズムを整える。　○ 要求方法を身につける。　○ 人や物に注目し、理解を深める。

⑤　④に基づき指導目標を設定。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として。	○人や物に注目し、そのものの理解を深め、自分から関わることができる。 ○校内で、流れに沿った活動に参加できる。 ○落ち着いた状態で学校生活を送ることができる。

⑥　⑤の指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定。

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定	（１）	（１）（２）	（１）	（１）（５）		（１）

⑦　項目と項目を関連付ける際のポイント。

ねることにより、さらに落ち着いた状態で学校生活を過ごせることを目標とする。

⑧　具体的な指導内容を設定。

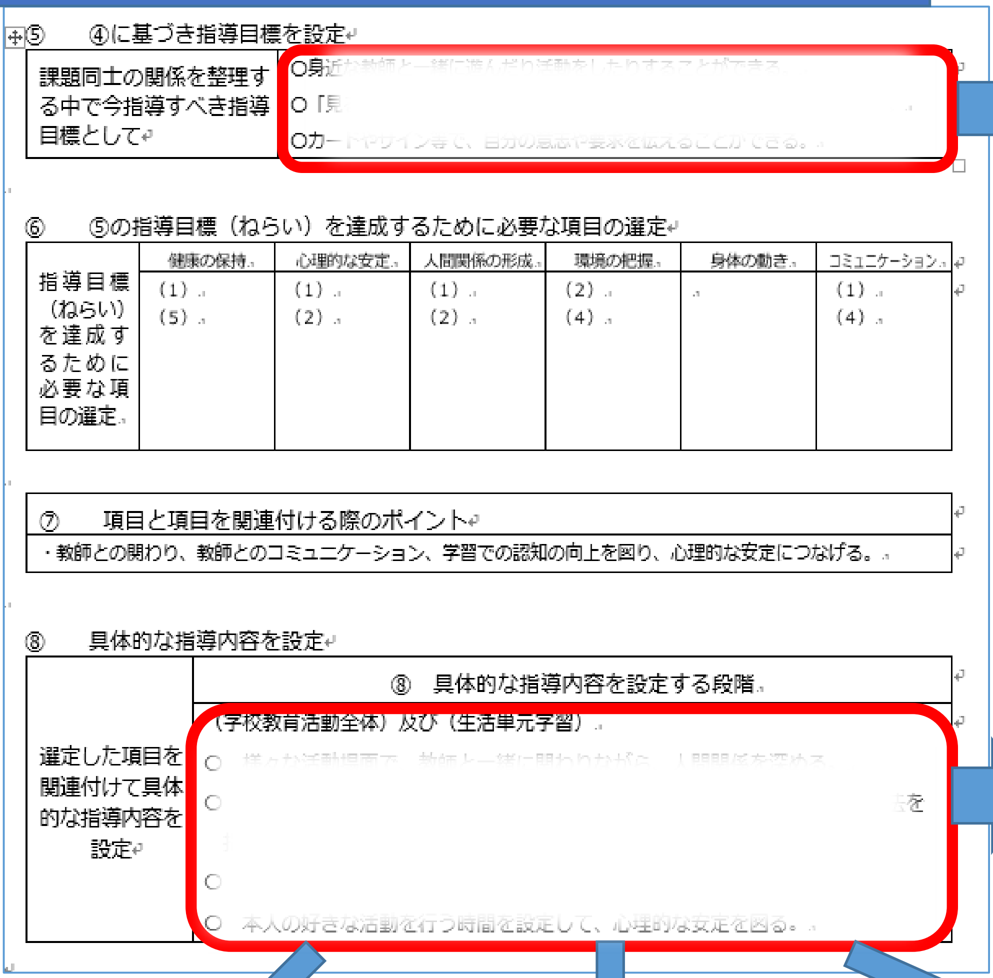
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定。	⑧　具体的な指導内容を設定する段階。 ○ 本人の落ち着ける場所を設定して、心理的な安定を図る。

本校で作成している個別の指導計画（様式３－１）をもとに、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導や生活単元学習等）で、自立活動の指導目標を設定して指導していくことができます。

☆裏面☆では、個別の指導計画（様式３－１）を活用して、自立活動の指導を実践している例を示しましたので、ご活用ください。

個別の指導計画（様式３－１）の活用について

個別の指導計画（様式3－1）　一部抜粋



⑤　④に基づき指導目標を設定

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	○身近な教師と一緒に遊んだり活動をしたりすることができる。 ○「見 ○カードやサイン等で、自分の意志や要求を伝えることができる。

⑥　⑤の指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定	（1） （5）	（1） （2）	（1） （2）	（2） （4）		（1） （4）

⑦　項目と項目を関連付ける際のポイント
・教師との関わり、教師とのコミュニケーション、学習での認知の向上を図り、心理的な安定につなげる。

⑧　具体的な指導内容を設定

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑧　具体的な指導内容を設定する段階
	（学校教育活動全体）及び（生活単元学習） ○　様々な活動場面で、教師と一緒に関わりながら、人間関係を深める。 ○　[illegible]を ○ ○　本人の好きな活動を行う時間を設定して、心理的な安定を図る。

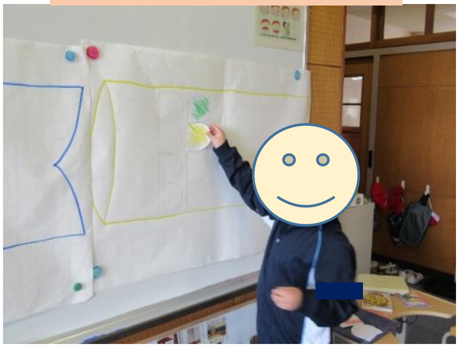
今年度（今指導すべき）の自立活動の指導目標になります。児童生徒の学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための指導目標となりますので、この目標の達成を目指して、授業を展開していきます。

指導目標の達成に向けた、具体的な指導内容になります。学校の教育活動全体で指導するのか、生活単元学習などの各教科等を合わせた指導の中で指導するのをかを明確にしておくことで、様々な指導場面で、具体的に自立活動の指導や配慮を行うことができます。

国　語

☆国語科の授業を通して、意図的に、教師と一緒に関わりながら人間関係を深めたり、絵カード等を活用してコミュニケーションの方法を確認したりしている場面。

生活単元学習



☆生活単元学習（自立活動の指導・図画工作科）の授業を通して、色を塗った鯉のぼりのうろこを、下絵を手掛かりに貼るなど、「見る」ことを意識することができるように指導している場面。

算　数

☆算数科の授業を通して、色や形など視覚的に分かりやすい絵カードを提示することで、見て分かる学習環境を整え、算数科の指導目標を達成できるように配慮している場面。